

## 健康栄養学科

### ① 教員養成の目的

食はヒトが生きていく上での基本的な営みである。このことから、子どもたちが将来にわたって健やかに生活していくためには、食に関する指導を充実し、望ましい食習慣の形成を促すことが重要である。また、食に関する指導の充実は、「生きる力」の基礎となる健やかな体と心を育むほか、食文化の継承、社会性の涵養などの効果も期待される。

しかし、近年の子どもたちの食を取り巻く環境の変化は大きく、未来へ羽ばたく子どもたちが食に関する正しい知識を身につけ、理解を深めることは急務である。

栄養教諭は、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ教員として、学校給食を生きた教材として活用する効果的な指導を行うことが期待される。このため、食に関する指導と、学校給食の管理を一体のものとした職務が求められており、養成においては、過去から現在に至る食の文化や歴史などを含め、子どもたちを取り巻く環境や教育における諸課題を的確に捉えさせ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を深く理解し、専門性を横断的に身につけることができるようにする必要がある。

本学科では、長年にわたる食の専門家である栄養士・管理栄養士を養成してきた経験並びに実績をもとに、これらの課題解決に必要な応用技術と豊かな人間性を備える栄養教諭の養成を目指している。

### ② 目標達成のための教育計画

栄養教諭の免許状は、栄養士あるいは管理栄養士の基礎資格の上に教育に関する専門性を併せ持つこととされている。このことから、健康栄養学科では、まず管理栄養士の国家試験受験資格を取得するための共通科目、専門基礎科目、専門科目で構成した教育課程を基盤に、栄養教諭一種免許取得につながる教育課程を整備している。

1年次より教員としての基礎力、すなわち人間性の涵養のための教養科目と教育の基礎理論を正しく理解するため、日本国憲法や教育原論など教職に必要な教育科目を履修する。2・3年次では、栄養に関する専門科目とともに教科・教職に関する科目において、現在の学校教育を取り巻く課題を的確にとらえる視点と、栄養教諭に必要な知識や指導方法を習得する。4年次では、小・中学校での実習を通して、栄養教諭に求められる食に関する指導と学校給食管理を一体とした職務の実際を学ぶ。

また、2年次以降は、栄養教諭希望者を栄養教育コースに配属し、担当教員を配置、随時面談を行い履修やその他様々な相談に応じるなど、きめ細やかな育成と指導体制を整えている。

さらに、食育サポートセンター等におけるボランティア活動を積極的に体験することで、建学の理念である「あすなろう精神」の向上を図るとともに、実践的指導力の育成に努めている。